



平成27年度指定 高指第121号

斉藤 慎二

生年／昭和33年 指定技術名／漆器・塗り



うるしのふたもの

漆の蓋物

上面に彫刻塗、側面に銅鑼塗を施した蓋付きの小さな乱箱(みだればこ)である。高岡の漆製品に古くから用いられる技法、形状ではあるが、現代の生活様式に合うよう洗練され、日常で愛用したい作品に仕上がっている。作者は無地塗りの指物を多く手掛けながら伝統的な技術・技法を幅広く習得しており、多彩な表現が施された本作からは、伝統技術を継ぎ伝える者としての思いを感じ取ることができる。

※銅鑼塗(どらぬり)とは、漆錆で凹凸を付けた地肌、変塗で柔か味を持たせ仕上げる塗装法。

令和元年作

素材・技法／桂、漆・彫刻塗、銅鑼塗

寸法／高さ6.8cm×幅10.5cm×奥行8cm

[表彰・受賞歴]

- 平成 6年 第28回全国漆器展富山県知事賞
- 平成 7年 第35回富山県デザイン展デザイン賞
- 平成 8年 高岡市伝統工芸産業優秀技術者表彰
- 平成10年 工芸都市高岡クラフトコンペティション審査員賞
- 平成12年 工芸都市高岡クラフトコンペティション審査員賞
- 平成15年 富山県伝統的工芸品コンクール大賞
- 平成16年 工芸都市高岡クラフトコンペティション2004テーマ部門賞
- 平成23年 伝統工芸高岡漆器協同組合模範組合員表彰
- 平成30年 伝統的工芸品産業功労者表彰(中部経済産業局長)
- 令和 4年 富山県功労表彰

[経歴]

- 昭和57年 父中谷俊夫氏に師事し、無地塗り技術を習得する。同時期より高岡市主催の技術者養成スクール及び高岡漆器協同組合主催の後継者育成事業で、変わり塗りや蒔絵、青貝などの加飾技術を学ぶ。
- 平成18年 伝統工芸士認定
- 平成28年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定